

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400956		
法人名	医療法人福和会		
事業所名	グループホーム朝風1		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3番11号		
自己評価作成日	令和5年11月6日	評価結果市町村受理日	令和6年1月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170400956-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム朝風は医療法人福和会の広大な敷地の中に建っており隣接に立花病院、ケアハウス、グループホーム青空があります。春、夏、秋、冬その季節のお花に囲まれ春はお花見夏はさくらんぼ狩り、散歩、日光浴、6～10月はバスレクリエーションで、動物園、水族館などに出かけ外食を楽しみ年に2回は近隣幼稚園との交流会で子供達に元気をいただき、冬はクリスマス会と沢山お行事があります。新型コロナウイルスも今年の5月より5類に移行しご家族様との面会も人数に制限ありませんが開始しております。行事も徐々に開始しサクラんぼ狩りやバスレクリエーションも行う事が出来入居者様の笑顔が何よりもうれしいです。理念の1, ゆっくり, 2一緒に 3楽しい暮らしを念頭に支援して行きます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム朝風」は、札幌市郊外の自然豊かな医療法人の敷地内に立地している2階建て2ユニットの事業所である。広大な敷地には花壇や畑、桜などの木々もあり、日々散歩をしたりサクラんぼ狩りを楽しむことができる。居間と食堂は独立した明るく開放感のある造りで、壁には利用者と一緒に制作した季節の装飾が施されている。観葉植物や家庭的な小物類も置かれており、温もりが感じられる。運営推進会議は毎回テーマに沿った資料を基に充実した内容で開催し、書面会議の時も全家族に議事録と資料を送ることで意見や質問が寄せられている。馴染みの関係継続の面では、職員が知人や友人への返信の作成や投函を手伝いながら関係が途切れないように支援している。食事は専属の栄養士と毎月献立会議を開催し、利用者の嗜好にも配慮したバランスの取れたものが提供されている。和食レストランやカレー専門店での外食、寿司の出前も楽しんでいる。法人が協力医療機関のため、定期往診の他、夜間の往診にも柔軟に対応しており利用者や家族の安心感につながっている。今年度は家族の協力の下にバスレクリエーションを再開するなど、感染状況を見ながら積極的に外出して気分転換を図っている。管理者を中心に全職員で情報交換しながら、各利用者に応じたきめ細かな対応を行っている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の命と心のケアと家族の心身の緩和に努める事を法人理念として掲げゆっくり、一緒に、楽しく、地域に根差して生活できる事を目標に日々取り組んでいます。	運営理念に「地域に根ざした穏やかな暮らしを大切にし、利用者の命と心のケアとご家族の心身の緩和に努めます」と明記している。事業所の要所に掲示し、職員のネームプレートにも記載して全職員で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内会の方とお話しもお会いして聞く事が出来るようになり、また幼稚園との交流会、山口神社の神輿が来てくれたりと交流も元に戻ってきました	幼稚園児が来訪して歌やダンスを披露したり、近所の方からトウモロコシの差し入れを受けている。感染症の収束状況を見ながらボランティアの受け入れを再開したり、法人のお祭りなどで地域住民と交流したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にてマイナンバーカードについて当法人事務の方よりのお話や地域包括支援センターの役割について包括の方よりお話ししたり、当法人病院にて物忘れ外来を行っている事のお話しなどしております		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月より集まって会議を行っております。会議でコロナ禍の入居者様の様子をお知らせしたりご家族様のご意見を聞く事が出来ました。次の会議の議題につなげていきます	外部評価や地域包括支援センターの役割など、毎回テーマに沿った資料を準備して会議を行っている。家族の来訪時や電話で参加を促したり、書面会議の時も議事録と資料を送ることで家族や構成メンバーから意見や質問が寄せられている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍でリモートでの会議や研修が殆どで実際に会ってお話する事が出来ませんでした。その間は介護保険課にはfax質問し解答をいただいたりしております	市役所の介護保険課に寝具のクリーニング代について聞いたり、区役所に介護保険の認定調査やおむつサービスについて確認したこともある。普段から情報交換し、何かあればすぐに相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準を職員が理解し身体拘束委員会を設置し指針をもとに委員が中心となり3か月に1回委員会を開催し身体拘束しないケアを実践しています。玄関の施錠は夜間のみ防犯上の理由でおこなっています	マニュアルを整備し、禁止行為11項目を事務所にも掲示している。利用者の状況に応じて靴に鈴を使用する場合もあるが、職員でその都度検討して家族から同意書ももらっている。今後、身体拘束委員会と勉強会の記録や資料を見やすく整備したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外で実施されている研修への参加、及び通達を確認しながら職員への周知を行っている。また研修内容を合同会議で発表し意見交換を行い防止の徹底を図っています。		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人をお願いしたこともあり後見人制度についての研修に参加し制度についての理解も少しずつ深められたので今後に活かしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所時 利用者、家族に十分な説明と話し合いをもち理解と納得をしていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍では手紙、電話、玄関での2m面会でご家族との意見交換の場としてましたが現在は面会再開となり意見要望を聞いております	来訪時や電話で家族の意見や要望を聞き取り、個人ノートに記入している。2か月ごとに「朝風便り」と利用者担当職員からの個人便りを送っている。家族参加の外出レクリエーションも、家族と話す機会になっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は法人の施設運営者との意見交換が出来る為何か要望などがあれば施設運営者との話し合いをして良い方向へつなげております	感染症の流行で全体会議はほとんど無いが、ユニット会議や申し送りで職員の意見や提案を聞いている。意見や提案があれば随時連絡ノートに記入し、内容に応じて全職員で話し合っケアや運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当法人の代表者との話し合いもあり困っている事等聞いていただき職員の働きやすい環境づくりをしております		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍での研修は殆どありませんでしたが、徐々に研修に参加して頂き個々の学習意欲を高めたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者会議に出席し意見交換を行っていましたが、コロナ禍ではリモートで手稲区介護施設全体の意見交換の場がもうけられておりそこの情報を日々のサービスに役立てております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居受付窓口は運営法人の相談員で入所前より相談員より情報をいただいております、また施設見学時に不安なこと、希望などに耳を傾け良い関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様に入居前に必ず施設見学をして頂いており、見学時に不安などあれば不安を取り除く説明しホームの雰囲気慣れて頂いております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に家族」、本人の要望を確認し、できる事出来ない事をしっかり説明する事で、信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から学び得る事は多々あり(人生の先輩)職員はその入居者の歩んできた道を大切に接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の声に常に耳を傾け入居者様とお話できる環境づくりをしたりご家族様の要望は聞き入れが出来る事は聞く体制にしております		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで大切にしていた方達との交流が続けられるようにご家族様と協力して継続できるようにしております	知人や友人から電話や手紙が届く利用者もいる。職員は返信の作成や投函などを手伝い、可能な限り馴染みの方との交流が継続できるように支援している。家族と自宅に帰ったり美容室に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様全員が楽しめる事を考え1人1人がお話しできる場を作り全体の雰囲気が良くなり話が出来る環境を作っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族と隣接の病院待合室でよくお会いします、ご家族様からの声掛けやこちらから声掛けて近況を報告し合っております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々本人御家族の意向を聞くようにしており、本人の立場に立ったケアプランの立案、実践 評価を通して思いやり意向をしっかりと捉える努力をしています。	ほとんどの方は会話から思いや意向を把握することができる。利用開始時に「ヒストリー表」を作成して生活歴や趣味などを記入しているが、追記や定期的な更新が行われていない利用者もいる。	利用者の変化に応じて「ヒストリー表」に追記したり定期的に更新し、各利用者の現状が分かるような書類を整備するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に出生から現在までの生活歴をかいていただき入居者様の今までの人生を把握し支援の中に取り入れております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	看護師が毎日健康チェックして記録しています。介護記録に毎日の過ごし方を記録し支援の仕方などを皆で考え明日へ繋げています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まずは状況把握し今何が課題となるか皆で話し合い本人、ご家族の意向をもとに介護計画を作成しております	利用者担当職員が行った3か月ごとの評価を基に、全職員で検討して6か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録や個人ノートに変化や課題を記載して、評価や介護計画の見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた実践を日々記録しており、日々課題が出た時に皆で話し合い良い方向へ向かえるように職員間で話し合い計画の見直しにつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	期間に応じ見直しを行っており、又、本人の変化が生じた時にはその都度対応を検討し、プランの修正をおこなっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	5月よりコロナ5類に移行したので町内会の草刈りなど要請があれば参加していきたい		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医である協力医療機関や、他科など利用者」が希望する医療機関への支援体制も確保しています。看護師が日常的な健康管理や受診経過の把握、医師との連携で医療支援に努めています。	法人が協力医療機関のため夜間帯でも往診が可能で、医療体制が充実している。かかりつけ医や専門医など外部を受診する時は、手紙や電話で健康状態を伝えている。往診と受診の状況は個別に記録している。	

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり日常の健康管理を毎日行っており常に職員に助言、対応を行い支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院を第一に相談し、必要な情報を交換、共有しつつ、入院中も安心して過ごせるよう配慮、支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて早い段階から、かかりつけ医、経営者、管理者と家族で随時話合いの場を設けてその都度方針を確認しあっています。	利用開始時に「重度化した場合の対応について」の書類に沿って、事業所の方針を説明している。個々の体調変化に応じて家族と主治医、事業所で随時話し合い、本人や家族が望む対応を可能な限り行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接している病院と医療連携をとっており急変時は日中、夜間共に診察を受けれる体制になっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近年毎年おきる災害に対して地震、水害、火災、感染症に対してそれぞれ対策を立て対応できるように防災用具の点検や災害時の連絡体制を訓練しております	年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練を実施し、うち1回は法人合同で行っている。各種災害マニュアルを見やすく整備し、救命講習も計画的に進める予定である。ケア別の個人対応については話し合っていない。	各種災害におけるケア別の個別対応について話し合うとともに、定期的に再確認するよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人のこれまでの経歴を尊重し1人1人が満足される対応をしております	ケア別や個別対応時の利用者への声かけをユニット会議で話し合い、人格を尊重し、言葉かけに配慮している。個人記録書類は適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のやりたい事をまず把握し可能であれば職員が補助し目標達成できるように支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせ、必要な支援を行っている。又本人のペースを尊重しつつ体力や、状態にあわせた生活の組み立ても考え支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望でお化粧して頂いたり、毛染め希望の方は毛染めして頂いたり本人の意向を重視しております		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のお手伝いの出来る方は今いません、入居者様は外食を喜びますのでメニューを前もって借りて自分目で選ぶことがうれしいので今年も自分で選んだ食事をしてきました	専属栄養士とともに毎月献立会議を開催し、利用者の好みを取り入れ提供している。行事食や出前、バスレクリエーションでの外食、畑で収穫された野菜で食を楽しむことができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日1000mlの水分を取るよう支援しています。専属の栄養士が栄養バランスを考えた献立を作り個々の状態に応じた食べ方を指導してくれています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず歯磨きをしていただいています。自力のできるひとは声かけしています。出来ない方はこちらで支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎にトイレ誘導し出来ない所を支援し1人で排泄できる事を支援しております	排泄チェック表を使用し、事前誘導にて全員が日中、夜間ともトイレで排泄が可能となっている。排泄用品の使用は本人、家族と相談して適切なものを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の出る時間を把握しトイレ誘導しています。又食事メニューに繊維質のあるものを取り入れたり、水分を多めにとっていただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	心身の状態を把握し、配慮しながら実施している。本人の意向で熱い湯、ぬるい湯と調整したり、入浴剤で温泉気分を味わっていただいたり入浴を楽しんでいただいています。	週2回の入浴を基本とし、週4日、月・水、木・土の午後に入浴日を設けている。全員が介助により湯船に浸かることができています。入浴順の希望にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休めないとき、職員が話し相手になったり眠れるよう1人1人にあつた方法や環境を把握し対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示に基づき、わからないところは確認しながら服薬の支援と変化の確認につとめている。誤薬がないようスタッフ間で声かけしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等の情報から職業や趣味を生かし役割分担や行事参加等の楽しみを利用者とともにしています。		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍では外出禁止でしたが現在は外泊は禁止ですが外出は出来るのでバスで外食に出かけたりしております。ご家族様との外出もしております	季節の良い時期は敷地内の遊歩道の散歩や花見、サクランボ狩り、畑の野菜の成長を眺めたりと外気浴を楽しみ気分転換を図っている。外出レクリエーションとして今年度は2回、利用者全員と家族が参加し、食事や交流を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の認知能力に応じてお金を所持させています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の認知能力により電話や手紙を書いていたいており、相手よりお手紙が来るととても喜んでおります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾をし又利用者の作品や写真を貼り楽しみがもてるようにしています。入居者の皆さんは装飾、写真、、作品を貼るのを楽しみにしております	広い共用空間は動線が確保され、季節の移り変わりが楽しめる大きな窓がある。壁には利用者と制作した季節飾りや作品、観葉植物が置かれている。ソファは数台置かれ好みの場所で過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでのソファの座る位置がそれぞれきまっており、それぞれが一番安心できる場所になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの衣類、タンスや机、イス壁掛け化粧品、をもってきていただき、本人が心地よく過ごせるよう置き場所を配慮しています。	介護用ベッドが備え付けられ、タンスやテレビなどが持ち込まれている。出窓には家族写真や好みの観葉植物が飾られている。壁には季節の作品や塗り絵の月カレンダーが貼られ居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路、トイレ浴室には手摺がついており安全に使用できる、各スペースも広くつくられているので車椅子でも安全に過ごすことができる。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400956		
法人名	医療法人福和会		
事業所名	グループホーム朝風2		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3番11号		
自己評価作成日	令和5年11月14日	評価結果市町村受理日	令和6年1月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170400956-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム朝風は医療法人福和会の広大な敷地の中に建っており隣接に立花病院、ケアハウス、グループホーム青空があります。春、夏、秋、冬その季節のお花に囲まれ春はお花見夏はさくらんぼ狩り、散歩、日光浴、6～10月はバスレクリエーションで、動物園、水族館などに出かけ外食を楽しみ年に2回は近隣幼稚園との交流会で子供達に元気をいただき、冬はクリスマス会と沢山お行事があります。新型コロナウイルスも今年の5月より5類に移行しご家族様との面会も人数に制限ありませんが開始しております。行事も徐々に開始しサクラんぼ狩りやバスレクリエーションも行う事が出来入居者様の笑顔が何よりもうれしいです。理念の1、ゆったり、2一緒に 3楽しい暮らしを念頭に支援して行きます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	○		○	○
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根差した穏やかな暮らしを大切にし利用者の命と心のケアと家族の心身の緩和を努めます」という理念が実践できるよう日々努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内会の清掃、資源回収に協力していましたが、コロナ禍より参加できていません。今年は幼稚園との交流会がありました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の活動報告にて、認知症の方への支援内容を報告し、理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事、日々の生活について報告し、話し合っています。利用者様の家族からの質疑も活発にあり、不安などないように適宜対応できており、サービス向上に活かすことができています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことは、電話にて市担当者に確認したり、運営推進会議に参加される地域包括支援センター職員との情報共有・意見を得ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員、指定基準を理解し、業務についています。3ヶ月に1回委員会を開催し、身体拘束をしないケアを実践しています。玄関の施錠は夜間のみ防犯上の理由で行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修へ参加し、研修の内容を合同の身体拘束委員会で発表・意見交換を行い虐待の防止徹底に努めている。		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで権利擁護に関する制度について理解はしていますが、実際必要となった時、すぐに対応できるかは不安なため、資料の整理をし、迅速な対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・重要事項説明書・運営規定・利用契約書などをもとに十分な説明を行い、理解・納得を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口、第三者委員会を設置し、苦情処理に努めています。2か月に1回のお便りと2か月に1回の利用者様の近況のお便りにて、気軽に相談できるような文面を記載し、促しをしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は個々職員に対し、相談しやすい雰囲気などに配慮し、気軽に意見交換できており、解決できないことは全体で話し合い、チームとしての団結も強まっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、定期的に職場の環境・条件について代表者に報告し、改善点について話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	退職者多く、人員不足が続いており、職員の研修参加はできませんでした。研修できる機会の確保とともにトレーニングの必要性について伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他管理者が参加した研修の情報を共有し、サービス質を向上させる取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	運営法人の相談員より情報を得て、施設見学時には、家族の希望に沿えるように話しをしっかりと受け止め、利用者本位にたった支援ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安が表出しやすい雰囲気づくりに配慮したり、表情・言葉から真意を予測したり、ご家族との信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話しを傾聴し必要としている支援を見極めたり、他の支援が必要であるか判断し、サービスの向上に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声掛け・見守り・介助を状況に合わせて介入し、ADL低下のないよう支援する。自尊心を傷つけない関わりで配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、最近の生活情報を提供するとともに、これまでの生活史をお聞きし、支援の方向性を話し合い、家族とともに本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙の返信の手伝い、投函をする。電話が来た際は、連絡しやすい雰囲気づくり・言葉遣いに配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を重視し、食席や居間の席を提供したり、スタッフが中心となり談話が楽しめる雰囲気づくり・話題の提供をしている。孤立しがちな方は話しの輪に入れるようスタッフが架け橋となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去後も、本人を訪問したり、ご家族と連絡をとり近況を伺って、相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どんな生活がしたいか、どんなことが楽しみかを本人に確認したり、上手に表出できない場合は気持ちを読み取ったり、ご家族に確認し、意向の把握に努めケアプラン立案している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ライフヒストリー表で生活歴や趣味などを把握したり、基本情報・課題分析概要から把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤帯、スタッフ3人で対応。イレギュラーなことがあれば、即時話し、対応変更している。生活状況などは介護記録に記載し情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は6ヶ月で見直し。家族・本人の意見取り入れる。3か月ごとに基本情報・評価・サービス担当者会議開催し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、介護記録にプランに基づいたケアが出来ているか評価している。変化があった時はスタッフ間で話し合い、検討必要であれば、適宜修正している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個性性を重視し、その人にとって何が必要であるか、何を楽しみとしているのかを考えるため、固定概念にとらわれず、柔軟に思考している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが5類に移行したが、クラスター発生もあり、地域資源との協働はできていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日、常勤の看護師がバイタル測定・全身状態の観察をしており、逸脱時は母体病院の主治医を受診し、治療方針を検討して頂き、適切な医療を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師で、バイタル測定・全身観察をし、介護職員から日中・夜間ともに情報を得て、日々、助言・対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中も必要な情報交換を病院関係者と共有し、早期退院ができるよう配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から主治医・管理者・家族と話し合い母体病院に入院できるか、できなければ外部の病院にスムーズに入院できるよう支援している。また、家族がどうしたいのか希望にも配慮している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体病院との医療連携があり、急変時は日中・夜間ともに受け入れ体制が整っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練をしています。災害時に必要な備蓄品を置いている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシーを守り、人生の先輩として尊敬、人格を尊重し、言葉遣い・態度に配慮し支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自ら決定権が持てるような場面を設定したり、会話の中で現在の生活の満足度を聞いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、本人の体調・ペースを配慮し希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用、本人の意見を聞き美容スタッフに伝え、自分の思うおしゃれができるよう配慮したり、自己決定のできる方は着替えの服は自分で選んで貰っている。		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事をし、楽しい雰囲気を提供したり、可能な方には準備・後片付けをして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専属の栄養士専従。食事・水分量のチェックし、水分の促しや主治医、栄養士と協議し栄養補助飲料の検討をするなど支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立度に合わせ、見守り・声掛け・介助をしている。口臭が改善しない場合は主治医に相談し、うがい薬を処方して頂く。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者全員、尿意あり、トイレで自力排泄できている。尿間隔の長い方、パット使用の方には排泄パターンを把握し声掛けしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の運動、水分量チェックをしている。便秘症の方に対し、排便間隔・便の性状などから主治医と相談し処方して頂く、処方後からは医師の指示の元、看護師が調整する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴日を決め入浴。短時間で済ませたい方、ゆっくり入りたい方、個々の好みに合わせ対応し、お湯の温度も適宜対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ、就寝時間・電気の明るさ・寝具の状態、安心して気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々、薬の目的・副作用などについて理解している。臨時薬があった場合は看護師から上記について説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から好きだったことや得意であったことをレクリエーション活動で提供したり、余暇活動で生活歴について尋ね、みんなの前で話して頂いたり、精神的安定を図っている。		

グループホーム 朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが5類に移行し、家族とのバスレクレーション実施しました。天気の良い日、外気浴をし、歌を唄ったり、しりとりを楽しんでいます。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する方なし。理解の出来る方には、本当に今、必要とする物であるか、お小遣いの使いすぎではないかなど話し合い、家族に確認してから購入している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話・手紙のやり取りができるよう支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	午前・午後適宜換気し、居間・全室に温度湿度計置き適宜対応。フロア・食堂の壁には季節の壁画を貼り、季節感を取り入れている。フロアには背もたれのあるソファを数台置き、ゆったりと過ごせるようにしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・食堂の席はコミュニケーションがとりやすいように、それぞれ決めている。独りになりたい時は、自室や食堂の席で過ごして頂く。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日常生活用品・タンス・椅子などを持ちこんで頂いたり、家族との写真・お気に入りのぬいぐるみを飾るなど居心地良く過ごせるようにして頂いている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路・トイレ・浴室には手摺がついている。各スペース広く出来ており、安全に使用、過ごすことが出来る。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム朝風

作成日：令和 6年 1月 30日

市町村受理日：令和 6年 1月 31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	「ヒストリー表」利用開始時に作成しているが変化のある利用者の追記や更新がされていない	利用者の変化に応じてヒストリー表に追記更新し利用者の現状が分かるようにする	1, 定期的に変化の認められるヒストリー表の項目をチェックする(各受持ち3カ月に1回)新しく見直し様のヒストリー表を作る	1か月
2	35	年2回の火災避難訓練、年1回の水害地震想定訓練は行っている。しかし感染状況で簡素して訓練していたところもあり個別対応が出来ていない訓練となっていた。水害、地震の訓練も同様である年々災害が多くなっている為災害時に個別対応できるマニュアルとしていく	火災避難訓練、水害地震時の避難訓練をマニュアルを見直しながら個別対応職員全員が出来るように訓練し災害時に迅速に避難誘導出来る体制にして行く	日中(入浴時等)夜間(不穏な利用者がいた場合)などの避難時の対応を話し合い迅速に避難できる体制にして行く(考えられる問題点を皆で話し合い対策を立て訓練する)	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。